



「二人一人に目をむけるには…」

小学生の時、A君という友達がいきました。鉛筆や消しゴムを貸してあげたのに、どこに置いたのか分からなくなって、結局返してもえなかったことがたびたびありました。今なら「発達障害かもしれない」と直感的に思うところですが、当時の私にとっては少し「物忘れの多い」友達でした。

学級には、特別な配慮を必要とする子ども達がいいます。その中には、ADHD（注意欠陥多動性障害）、学業不振、軽度の知的障害、LD（学習障害）、高機能自閉症などの子ども達が含まれています。こうした子ども達には全て特別な教育的配慮が必要といえます。

現在、文科省によって「特別支援教育」が進められています。まだまだ、教職員の配置が十分でなく、能力に応じた個別指導を行っていく実態があります。

先日、ある雑誌で、「子どもは変わる。その実績を積み重ねること、学校も親も地域も変わります」という記事を見つけた。記事の主は、大阪の堺LD研究会代表の

米田和子先生です。先生が勤務する堺市内の公立小学校では、七年前からLD研修をスタートし、現在やっと「個に応じた指導」が定着しつつあるとのことでした。

なるほど「一人一人に目を向ける」という「教育の原点」に立ち帰ってみると、配慮を必要とする子ども達にとって分かりやすい授業は、すべての子ども達にも分かりやすい授業であり、工夫して指導することは、教員の指導力の向上につながり、障害や困難を持つ友達の特性を違いを理解し、お互いに尊重し合ったり助け合ったりすることは、豊かな心の育成にもつながっていくわけですから、こうした教育を実現するための条件整備は急務だと思われまます。

米田先生は最後に語っています。「二握りの先生に負担をかけてしまうと、安心して休めない先生も出てくる。職場の連携を大事にして、子どもが変わっていくことを楽しめる先生が増えてほしい」と。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

香々美小学校 小坂田 哲

のびのびひろば

富保育園

げんきいっぱい プールあそび

富保育園の3・4・5歳児の子ども達は、7月19日から8月11日まで、富小学校のプールを借りて、プール遊びを楽しみました。



天気の良い日には富小学校までの約400m、交通ルールを守りながら元気いっぱい歩きました。

手をあげて右を見て左を見てもう一度右を見て車が来なかったら渡りましょう。



ボール拾い、ヨーイドン！



ヤッター！見て見て。

いっぱい取るぞ。

短い期間でしたが、顔つけができるようになったり、泳げるようになったりと、一人ひとり自信を持って遊べるようになり、一回り大きくなった子ども達です。

その頃、2歳の子供達は…



来年プールに入れることを楽しみにしながら、保育園の園庭で水鉄砲やシャボン玉、泥んこ遊びなどを、思いきり楽しみました。



「行ってらっしゃい。楽しんで来てね。」「今日は暑くなった。一緒に泳ぎたいなあ。」と、地域の方々に声をかけてもらい、一時のふれ合いも楽しみました。